高温に伴う農作物等の管理対策

令和元年９月５日
新潟県農林水産部

気象庁が９月５日８時45分に発表した「台風５日進路予報」によると、台風第13号は６日から７日にかけて朝鮮半島付近を北上する見込みです。また、新潟地方気象台が９月４日10時55分に発表した「北陸地方週間天気予報」によると、新潟県内では６日の最高気温が32℃、７日と８日が34℃と高くなる見込みです。
フェーン現象も想定されるため、今後の気象情報に十分注意し、農作物等の適切な管理等に努めてください。

１　水　稲

【事前対策】
（１）収穫期を迎えたほ場は、できる限り速やかに収穫を行う。
（２）出穂の遅いコシヒカリや晩生品種は、胴割れなどの発生を防止するため、収穫作業に支障をきたさない範囲で湛水に努める。
【事後対策】
フェーン現象となった場合は、必要により乾燥速度（毎時乾減水分）が0.5%以下になるよう送風温度を低く設定し、胴割粒の発生を防止する。

２　大　豆

【事前対策】
暗きょ栓を閉栓し、土壌の乾燥を防止する。

３　園芸全般

【事前対策】
フェーン現象が予想される場合は、ほ場やポット・トレイの乾燥及び作物の脱水症状を防ぐため、朝夕の涼しい時間帯にかん水する。特に砂丘地では、飛砂防止も兼ねて風が強くなる前からスプリンクラー等で十分にかん水する。
【事後対策】
（１）フェーン現象の影響で脱水症状が見られる作物は、速やかにかん水する。
（２）高温時に収穫した切り花は、花しみ障害等の発生を防止するため、速やかに涼しい場所で水揚げを行い、蒸散の抑制と品温の低下を図る。

４　畜　産

【事前対策】
（１）熱射病等の家畜疾病を防ぐため、密飼いを避け、送風機、細霧システム等の暑熱対策を徹底し、家畜の体感温度の低下に努める。
（２）給餌による急激な体温の上昇を防ぐため、多回数給与や朝・晩の涼しい時期に給与し、新鮮な水を常に十分飲水できるようにする。

【事後対策】

熱射病等により家畜に急激な体調の変化が見られる場合は、速やかに獣医師の診療を受ける。また、家畜の死亡被害があった時は、速やかに化製場に搬入する等的確な処理を行う。

５　きのこ

【事前対策】

散水・空調等で温度管理に努めるとともに、きのこについては品質低下前の早期収穫に努め、収穫後は保冷庫等で保管する。